

平成 21 年度「三田市史を読む会」現代資料編第 3 回講座 2009 年 12 月 12 日

## 「青野ダム」が三田市にもたらしたもの（講義概要）

講師：三田市史執筆委員・大阪人間科学大学教授 杉本久未子さん

### 1. ダム建設と地域社会

#### ◆ダムの機能と公共性

ダムの必要性：ダム建設によって得られるもの（治水・利水）とダム建設によって失われるもの（水没地域の生活・文化・環境）との比較秤量により決まる

→広義の社会構造の変化によってそれぞれの比重が変容することもある

#### ◆ダム建設と周辺整備

ダム建設地の住民に対する財産面での補償と生活再建＋完成後の環境整備

### 2. 青野ダム建設の全体像（資料 5：「さんだ 40 年のあゆみ」青野ダム建設のあゆみ）

昭和 4 2 年 6 月の異常渇水が直接のきっかけ

同年秋計画発表・反対期成同盟の結成

昭和 5 6 年 12 月建設事業に伴う協定調印（事実上の反対運動終息）

昭和 6 3 年 5 月竣工式

→足かけ 21 年の建設事業のうち 14 年が地元調整に費やされる

### 3. 青野ダムはなぜ必要だったのか（資料 1：31、45）

#### ◆深刻な水問題（工業・住宅開発によるまちづくりの限界）

#### ◆北摂ニュータウン計画の要

市当局は当初は神戸市との合併による解決を模索するが、合併に対する県当局の難色により県営ダムへの期待に転換（資料 31）

計画当初は都市用水確保の必要性を強調（資料 45）

→竣工時点では治水上の必要性を強調（資料 139）：社会情勢の変化を反映

### 4. 生活と環境を守る試み（資料 2：52、115、136）

#### ◆地権者が守ろうとしたもの

「ふるさと」での広義の「生活」→青野ダム建設の場合、転出・移転による補償とともに、農地の「干し上げ」（かさ上げ）に象徴される、現地での生活再建を重視した対応に特徴がある。

### 5. 地域資源としての青野ダム（資料 3：138、資料 4：139、140）

#### ◆ダムの恩恵とまちづくり上の意義：資料 138 に象徴

#### ◆環境拠点、レクリエーション拠点としての千丈寺湖

社会情勢の変化により、余剰となった土地や高水敷については、「親水」の観点からの施設・環境整備がはかられる。またそれらを活用したイベントも開催（資料 139、140）

←市の地域構造の変化（都市化）、ダム建設によって失われた自然環境の復旧整備

### 6. まとめ

20 年にわたる青野ダム建設事業は、その時々々の社会情勢や市域の課題に応じて、利水重視から治水重視、さらには親水（都市近郊における環境形成施設）といった多様な役割を担ってきた。今後は「環境」保全の観点からの利用調整も課題になると考えられる。